

3月 regular meeting 定例会

平成22年3月定例会は、平成22年度一般会計予算、特別会計予算については、3つの特別委員会を設置し、ほか補正予算、条例制定・改正など27議案について、慎重に審議した結果、いずれも可決しました。

平成22年度

前年度対比

一般会計 58億

事務事業の見直しを徹底、事業の選択と集中で財源の効率的、効果的な活用を図り、魅力あるまちづくりの推進！！

歳入

科目	予算額	前年対比
町税	12億6299万円	△3.8%
地方交付税	12億7000万円	5.0%
県支出金	10億1425万円	84.4%
国庫支出金	4億2377万円	89.2%
繰入金	1億7000万円	△19.0%
町債	11億510万円	135.6%
その他	5億6989万円	0.1%
合計	58億1600万円	28.0%

(注) △はマイナス

主要な内容

- 町税は景気の低迷により、町民税、固定資産税ともに減少
..... 4990万円減額
- 子ども手当負担金..... 2億1522万円
- 特用林産物活用施設整備交付金..... 6億円
- 繰入金
・ 財政調整基金から..... 1億3000万円
・ 公共施設整備基金から..... 3000万円
・ 図書資料購入に充てるため芸術文化振興基金から
..... 1000万円
- 町債
・ 臨時財政対策債..... 3億3000万円
・ 国営筑後川下流土地改良事業負担金支払い利子の軽減を図るための繰上償還のための借入
..... 7億6050万円

情報センターがオープンすることから、町が保管している郷土芸術家の作品展示もきちんと行われた。

■ 学校給食共同調理場については、設備面で不足しているものは計画的に進めるよう指示する。また、給食の食べ残しが多いことから、給食残渣を減らすための工夫改善策を検討された。

■ 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への設置替えに20万円の上乗せ補助について、住民の方への広報等による周知の徹底を図り、設置替えの促進を強く要望する。また、維持管理費の個人への軽減等について検討された。

■ 道の駅の施設使用料などの料金設定等さまざまな面での今後の十分な検討を要望する。

■ 循環センターの施設は指定管理者に委託し、これまでの期間順調に稼働している。町の職員での対応についてはどこまで関係していくかは、今後検討の必要があるのではないかと指摘する。

■ 道の駅については、レストラン、直売所については別途経営者が運営、周辺農地についても別途管理者がいる、指定管理者は、施設（公園、トイレ、案内所）の維持管理及び全体の環境整備、関係者との連絡調整、イベント開催等が主なものとなる初年度であり、今後十分検証していく必要がある。

また、人員配置については、駅長の配置、2年間だけの補助事業による2名の雇用など、この間に全体の管理計画を作成され、費用対効果等十分検討するとともに、指定管理者制度の主旨に沿い、他の道の駅の管理状況等参考に管理運営を適切に行われた。

第3予算審査特別委員会(建設経済常任委員会)

審査報告(概要)

委員長 菰方 重義
副委員長 近藤 純久
委員 中島 藤美
中ノ森 慎一

■ 大木町農産物加工促進事業及び活力ある高収益型園芸産地育成事業のトマトハウスについては、4月にオープンの農産物直売所、農家レストランへ出荷される特産品の生産振興、地域特産加工品の創出にかかる施設整備に一定の補助を実施することであり、直売所等の成功に向け積極的な推進をされる。

■ 農業、商工業の振興・活性化及びクリーク、道路等住環境の改善は大木町の発展につながるものであり、財政的に厳しい中、最小限の費用で最大の効果を発揮するよう強く要望する。